Action 55
ヤエスハラ FYA-925
取扱説明書
八重洲無線株式会社
このたびはYAESSUペーパルトランシーバーFYL-925をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は最善の品質管理のもとに生産されておりますが、万一運用中に事故などにともない、破損またはご不審な現象がございましたら、お早めにお問い合わせください。弊社または販売店の各仕販業者サービスにお問い合わせください。

● お取り扱い

正しい操作方法をご理解いただくために、本書を必ず専用説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。操作方法に従いなお、本製品の性能が十分に発揮できないときは、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。

操作方法の誤りや原因で故障を生じた場合は保証期間中でも有償修理にさせていただくことがありますのでご了承ください。

● アフターサービス

万一故障のときはお買い上げいただきました販売店、または販売店の保証店サービスへ修理をご依頼ください。保証店サービスステーションの所在地、電話番号はこの取扱説明書の裏表に記載しております。

①保証期間内はお買い上げの日より1年です。これもしくは添付してある保証書をご覧ください。

②保証期間をすぎた修理の場合、部品代の他に規定の技術料をお支払いただきます。

製品の改良のための、取扱説明書の写真などが一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。
付属品

箱の中には、免許申請等の重要書類、“ROM”カードリッジ、マイクロホンなどの付属品が入っています。付属品を一式お確かめください。

① 取扱説明書-----------------------------------1
② 保証書-------------------------------------1
③ リモコンシート付マイクロホン----------------1
（本体に接続します）
④ マイクロホン取付金具-------------------------------1式
⑤ 電源接続用ケーブル----------------------------------1
（本体後面より出ている電源ケーブルに接続します）
⑥ キーボードブレケット 取付補助金具------------------各1
⑦ キーボードブレケット取付補助金具------------------1式
⑧ 予備ヘッドホン（2本）-----------------------------------1
⑨ “ROM” カードリッジ-----------------------------1
（免許申請書類と共に財団法人電気通信振興会へ送ります）
⑩ 免許申請用封筒-------------------------------1
⑪ 委任状--------------------------------------1
⑫ 技術基準適合証明書-----------------------------1
⑬ 郵送販売用封筒用紙----------------------------------1
⑭ 送信用封筒-------------------------------------1
⑮ 送信用封筒-------------------------------------1

※ 取扱説明書、保証書は大切に保存してください。
※ 料金書類は、よくお読みになり必要事項を正しく書き込み、“ROM” カードリッジと共に財団法人電気通信振興会へ送ります。
本機の特長

- 適切な音を発信できるトランスファの通話性能をもっています。
- 小型で軽量です。専用の取付が簡単で、手軽です。
- 消音電流が少ない。
- 口脇の大きな内蔵スピーカーの採用により、走行中でも広範な通話ができます。

- バックアップ電池を内蔵していますので、電池を切ったままで長時間、新番号などの内容を記憶します。
- 通話チャネルのモニターは、ステップモーター（1周値）と、サーボモーター（1秒以上降し続ける）の2つの機能があり、サーボモーターのとき通話中のチャネルで自動的に5秒間停止し、他局の通話をモニターできます。チャネル毎はランダムでエンコードに動作します。
- ディスプレイは、グリーンの透過型の立体視覚素表示器の採用により鮮明です。
- ディスプレイ内にS/PO メーターをはじめ各種の動作状態が表示され、同時に信号状態で無線の動作状態を知らせます。
- 切り出しを受けると、電話機のように"ビーン、ビーン"の音を内で知らせてくれます。
- 半分で使いやすいパネルの左面に設置したキーボードなど、操作性を重視したパネル設計で安全運転をお約束いたします。
- ステップフックショックキーで多機能の動作ができます。
- SPOチャネルアクセスモード、緊急連絡用などの特定コード、各種のモニターディスプレイ機能などの新機能フル装備です。
ご使用の前に

● 先許の申請は、添付の「パーソナル無線免許申請用紙」をよくお読み頂き、財団法人電気通信振興会へ申請を行ってください。

● 本機は免許番号が書き込まれた「ROM」カートリッジを取り付ければ電波の発射ができます。付属の「ROM」カートリッジを先許の申請を行う際には、必要書類と共に付属の専用封筒で財団法人電気通信振興会へ送付してください。

● 本機の電源は、電流3.6Vマイナス電池となっています。電流24Vでご使用の際は電圧変換コンバータFDC-1を使用してください。詳細は各店舗へご相談ください。

● 本機に接続するアンテナは、パーソナル無線利用促進協議会認定品である当社純正アンテナをご使用ください。

● 本機を分解したり改造して使用することは、電波法で禁止されています。

取扱説明書及びご使用になる場合は、取扱の安全を守るために、次の注意事項を十分確認してご使用ください。
① 使用中の監視及び操作等の中ではご使用しないでください。
② 充電、接続、通信等その他の接続機器は、標準取扱説明書に従って、適切な設備及び接続の方法を十分に確認した上でご使用ください。
③ 周辺機器の動作状態によって、不適切な信号を電波放送機器に障害を与えるおそれがありますので、周辺機器の機能に支障のないことを十分確認した上で、ご使用ください。

ご注意

付属の「ROM」カートリッジは、必ず免許申請を行ってから本体へ取付けて下さい。一度本体に取付けると、取りはずすことができない事情となっていますから、免許の申請ができないとなります。
各部の名称と働き

① VOL（ボリューム）
押してON.OFFする電源スイッチと、
音量調節のツマミです。

② SQL（スケルチ）
スケルチ調節ツマミです。

③ MIC（マイク）
マイクロホンを接続するソケットです。

④ キーボード①, ②, ③, ④）
計量の設定と①（アクション）
キー、④キーを併用して、BEEPやLO
CKなどの動作を命令する時に使用します。
（次ページ参照）

⑤ ①（アクション）キー
このキーを押してから続けてキー①,
ロートのキーを押すと、各種の機能を選択す
ることができます。
各種は次のページをご覧ください。

⑥ RESET（リセット）
通信を終了したとき、モニター状態か
ら受信状態状態にするとときなど基本の状
態に戻す時に使用します。

⑦ MON（モニター）
通信チャンネルモニター、またはサ
ーチモニターするとき、および静音号
"00000"で呼び出しを受けて受信
に入ると使用します。
### マルチファンクション機能表

<table>
<thead>
<tr>
<th>操作</th>
<th>表示</th>
<th>解説</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>01</td>
<td>LOCAL</td>
<td>「チェスト操作」の設定を確認します。</td>
</tr>
<tr>
<td>02</td>
<td>TIMER</td>
<td>「タイマー操作」の設定を確認します。</td>
</tr>
<tr>
<td>03</td>
<td>BEEP</td>
<td>「ビープ音」の設定を確認します。</td>
</tr>
<tr>
<td>04</td>
<td>TIMER</td>
<td>「タイマー操作」の設定を確認します。</td>
</tr>
<tr>
<td>05</td>
<td>LOCAL</td>
<td>「ローカル操作」の設定を確認します。</td>
</tr>
<tr>
<td>06</td>
<td>CM</td>
<td>「コマンド設定」の設定を確認します。</td>
</tr>
<tr>
<td>07</td>
<td>CM</td>
<td>「コマンド設定」の設定を確認します。</td>
</tr>
<tr>
<td>08</td>
<td>MULTI</td>
<td>「マルチ設定」の設定を確認します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### CQ

番号「00000」を単純に設定するときと使用します。
またこのキーを押してから最後のキーに押すキーのキーを押すと、交通事故発生などの特定コードをセットできます。
11 アンテナ接続ケーブル
アンテナに接続します。
12 電源ケーブル
電源に接続します。
13 EXT. SP（エクステーナルスピーカー）
外部スピーカーを使うときに使用します。
14 LAMP（ランプ）
ディスプレイの照明スイッチです。
15 "ROM" 取付位置です。
16 AUX
外部コントロール用機器接続用の端子
がシールの内側にあります。
LOCKのしかた

不用意にキーボードに触れても動作状態が変わらないよう次の操作でロックできます。

① Fキーを押し続けディスプレイ左端に"F"を表示している5秒以内にGキーを押します。

② ①の操作で各鍵が受け付けないロック状態になりますが、ECキー、RESETキー、PTTスイッチおよびロックを解除するためのFキーを続けて押すとGキーは受け付けます。

BEEPの止めかた

暗号の運用などで操作/動作の確認を早めたいときにはGキーを続けてGキーを押して止めることができます。
ROMカートリッジの取付方法

無線機を基本用へ設定する前に、製品取扱説明書及び取付説明書に記載される、ROMカートリッジを無線機に装着します。

1. ROMカートリッジを装着する場合は、電源スイッチを切ってから行ってください。
2. 本体後部のシールの下にカートリッジソケットがあります。裏込めROMカートリッジを深刻カバーより取り出し、下図を参考にまっすぐ正しく挿入してみてください。

ROMカートリッジの取付の操作は、31ページROMカートリッジなしの操作のしかたを参照してください。
車への取付方法

車載時の注意事項

○ 無線機の取付場所は、運転に支障のないよう安全と操作性を考えてください。危険を
さけてはならない（急停車等を行った場合更に注意を怠らないと再発します）。

○ 無線機をダッシュボードやコンソールボックスに組み込む場合、外部スピーカー用に
数枚のスクリュードライバーの使用をお願いします。

無線機の取付け、取外しをされる際は、電源スイッチを切った後、必ず電源ケーブルとアンテナの同軸ケーブルを外してから行って下さい。

取付方法

1. 取付場所が決定したらモールドプラケット（コ形の取付金具）をひとまず外し、
取付穴を型紙にして穴位置を決定します。

2. 取付ネジは直径5mmですから、3.5mmから6mm程度の取付穴が必要です。

3. 取付には付属のビス、ワッシャ、ナットを使用して、振動等でゆるさないよう確実
に固定してください。

4. 無線機を設置しようとする場所に固定するのに適当な支持物がない場合には、取付
補助金具を利用して固定してください。
* モービルプラケットを取り付け
てから無線機を固定します。

* 構成金具を利用して固定し
ます。

車載から基地局へと移動に
便利な携帯型のワイヤレス
型モービルプラケット MMB
-15 を用意しております。
詳しくは、お問い合わせください。
車載用の電源接続

電源の接続作業をする際は、必ず次の手順で行ってください。なお、FYA-925は12V型バッテリーを使用している車で取扱いに便利です。大型のトラックやバスなど24V型バッテリー使用の車では24V→12Vの電圧変換コンバーターFDC-2を別途して下さい。設置は事前にご相談ください。

○まず、バッテリーの端子（マイナス）結線の接続をチーニバルゴと外して、バッテリーのマイナス側をボートから必ず切ってください。
○電線の端子を、バッテリーの端子に適切に接続した後、必ず電線スイッチを切って、次のヘンガの切っておいてから行ってください。
○バッテリー接続の接続は、赤線をプラス、黒線をマイナスに接続してください。
○アンテナの接続部への接続は、電源ケーブルの接続が完了し、電源スイッチを入れて既存接続を確認してから行ってください。

(1)電源をバッテリーの端子から直接取ってください。
電線ケーブルの黒線をバッテリーのプラス側テーミナル、黒線をマイナス側テーミナルに接続し、接続に誤りがないか確認してから(マイナス)側のテーミナルをバッテリーに常通電接続します。

(2)電源をヒューズボックスの端子から取ることもできます。
電線ケーブルの黒線をヒューズボックスから出ているアンテナ電源端子に接続します。
(アンテナ電源端子の接続が無い車種の場合には、イグニッションスイッチをOFFにすると電源が切れるACC端子に接続します。)
電源ケーブルの黒線をバッテリーのマイナス側テーミナルに接続します。
接続に誤りがないかを確認してから、(マイナス)側のテーミナルをバッテリーに常通電接続します。

(3)シガレットライターポートから電源を取ることもできます。
代理店などに販売時にパーソナル無線機を付ける場合など電源を取る便利な方法です。
シガレットライターポートグリップ(抗流用、ケーブルショートなどでお求めください)に電源ケーブルを接続して電源を取って下さい。
この場合、グリップの端子(+)(プラス)で赤線、端子(マイナス)で黒線になります。

-12-
ご注意

1. エンジンルーム内の電線ケーブルの引き戻し、エンジンの上など熱の高まる部
分をさけて配線してください。

2. エンジンルームから車内に通す部分にあたる電源ケーブルは、前後20〜30cmには保護
用テープを巻くなどの配慮をしてください。

3. (3)のバッテリーから直接電源を取る方法では、無駄の電流スイッチを切り忘れ
た場合、バッテリーが消費して次にエンジンをかける時に支障を生ずることがあります
のでご注意ください。

4. (2), (3)の方法では、インカムショーンノイズ、ワイヤーモーテー板指示ランプ用ス
イッチが発生する確率が入ることがあります。また、エンジン起動時の電圧低下で無
駄がリセットされたりして、すでに設定してあった運行条件が変わっていることも
ありますので、直接バッテリー接続に接続する(1)の方法をおおすすめします。

5. バッテリーの状態によっては、(3)の方法によってもリセットされることがあります
すか、充電などでバッテリーを点検してください。
基地局の設置方法

パーソナル無線機 FYA-323 の内蔵スピーカーは、直面形にありますから、事態用又は
全員を下側に付け適当な角度に固定してご使用ください。水上などに直接置いて使用する
場合は外貼スピーカー SP-55 の使用をおおすすめします。

FYA-323 を用い genie 適用可のキ
ャリングセット CSC-1 を使用すると

可用としてもご使用になれます。

(携帯時に便利なヘッドセット WH-1，
スピーカーマイク MH-10D もなりま
す。詳細ページを参照してください。)

-13-
バーサーチ電源器FVA-920は、電流に交流13.8V（12V型バッテリー）で使用するよう設計してあります。

基地方体用に使用する場合、12V型バッテリーと充電器の組み合わせでご使用いただくことも可能ですが、あらかじめご用意のうえ、基地方体用のFVP-88型専用交流電源をご使用ください。電気工事の注意です。

主要電格

入力電圧 交流100V 50/60Hz
出力電圧 直流13.8V
出力電流 最大3A
ケース寸法 幅118×高さ57×奥行279mm
重量 約0.3kg

なお、使用に当たっては交流電源や充電器専用電源などの中には、波形不良の電流を含むもの、リップル（微細な交流成分）の多いもの、電流を発熱して温度上昇に不適なものがありますからご注意ください。
基地局用電源FYP-80との接続
交流100V用電源FYP-80の接続を下図のような出力端子がついて、この端子に無車機の電源ケーブルを接続して下さい。
① 電源ケーブルを接続の際に、接続された端子部分が切れておらず、接続部が部分の切れ方を確認してから接続します。（赤線、黒線とも）
② 出力端子の一番上のネジをゆるめ、赤線の先端を板の下へ斜めに差し込んでからネジを締めつけます。
③ 同様に、次に下側のネジをゆるめ、黒線の先端を板の下へ差し込み締めつけます。

FYP-80には操作性と放熱効果を上げるためワイヤスタッドとリヤスタッドが付属しています。ワイヤスタッドは後方から差し込み、また、リヤスタッドは右図を参考に組立ててご使用ください。

ワイヤスタッドの取付方法
リヤスタッドの組立方法
アンテナの接続

パーソナル無線のアンテナは必ずパーソナル無線番及び周辺機器を含む品のスペック型コネクター付の製品を使用してください。（6ページ参照）

無線機端末より出ている同軸ケーブル先端のN型コネクター（ノス型）はアンテナ（アンテナ基台）から引き込んだ同軸ケーブル先端のN型コネクター（オス型）をさしだ込み、外側のシールを時計方向に回して完全に接続してください。

不完全な接続では、受信機能がとれず、またこの状態での送信は無線機本体を破損することがあります。
マイクロホンの接続

マイクロホンの接続は、無線機の電源スイッチが切れていることを確認してからプラグを本体前面の8ピンのマイクロホンジャックのキーにねじって差し込み、プラグ外側のリングを確実に固定し、マイクロホンの付属のMH-10をこの認定品以外を使用できません。認定品以外のマイクロホンでは、たとえ同じプラグ付であるにもかかわらず、通常の無線機の機能がありませんので接続を異なり、無線機を確実に固定しておいてもしください。

オプションでMH-10aと同型のオーディオマイクロホンMH-10oa、お手の便でマイクを増設できるフレキシブルマイクMF-10oa、ヘッドセットYH-1（マイクロホン付ヘッドホン）などの認定品があります。詳細は本書の後部をご覧ください。
オプション外部スピーカーの接続

外部スピーカーの接続は、スピーカーから出ているコードをねじの3.5mmのミニプラグを、本体後面のスロットに挿入してください。このプラグを挿入すると、内蔵スピーカーの動作は停止します。

SP-55定格
スピーカーオーディオ：50×90㎜
最大入力：5W
インピーダンス：4Ω
ケース寸法：幅137×高66×奥行55.5㎜
重量（全長含む）：約200g

ワンポイントアドバイス

群番号とは

パーソナル無線では誰でも気軽に作成できますが、大切な番号を忘れられないように考えることを基本にしています。

その場合、パーソナル無線では、チェンジの設定やコールサイン（出荷番号）の設定なども自動的に行います。他に通話を行うための設定は群番号が設定され、その内容が指定されます。

お互いにあらかじめ各群番号を設定することにより、いつでも連絡のしやすいシステムを整えます。
使い方 (基本操作)

1. 準 備
通常の通信は、43ページまでの基本操作の項で説明してありますが本機にはさらに高
度な機能がありますので45ページ以降のその他の機能と動作も参考にしてください。
以下の説明において
1. 「READY」、「MON」、「RX」は点灯、「READY」、「TX」、「RX」などは暗緑色の点灯を表わします。
2. 「MULT」表示は、マルチモード待ち受け時に点灯し、シングルモード待ち受け時には消
灯します。
3. メモリーの群番号を呼び出す時は、メモリー番号を群番号の左に表示します。

- VOL: ゾンクを押して電源を入れます。
  (再び押すと電源は切れます。)

- ディスプレイに電源を切る前には表示して
  いた群番号などの表示が消えます。

- MONキーを1秒以内のワンタッチ操作
  で押し、ディスプレイに "MON" を点
  灯させます。
● SQLツマミと VOLツマミを時計方向に回す時に
の位置にしましょう。
● 撮影機の設定が開かれたま、適正な音量
になるようVOLツマミを調節します。

● 信号が出やすいうち（「ジー」という音が出
た時SQLツマミを時計方向に回し、音
が溶ける点にて調節します。

● RESETキーを押してリセットします。
● "MOM"が消灯し、待ち受け状態になり
ます。

※使用の際は、RESETキーの動作は、本体のRESETキーまたはマイクロンのRES
ボタンで行ってください。

**ワントポイントアドバイス**

スナップとは

パワーソナル無線では、通話チャンネルにおいて受信時、電流の入らない時に下記電流
特有の "ジー" という音がでます。この音を抑えるための機能がスナップです。

この機能はリブートすることができるです。ツマミを反時計方向に回してい
った状態では、ほの電流の流れても無音とし陰ミーから出力されます。時計方向に
回すと回して電流の流れが大きくなる出力されるようになります。通話チャンネルのモニ
ターを行う時や、電流の流れなどに従います。
■ スケルトン箇所

1 SQL的操作を反時計方向に添え切れます。
2 マルチモード映像の有無に“MULTI”を表示させたとき
   ・マルチモードでは4メモリの群番号（CGキー）による群番号“00000”を待ち
     受けに指定した場合は3メモリ）又は特定群コードまで待ち受けに指定できます。表示中の
     群番号に関係なく呼ばれた群番号に移ります、(反時計方向に添えられます。)
   ・待ち受けに指定した以外の群番号では、メモリとしてあっても、あるいは表示中であ
     ると待ち受けできません。
3 何らかの誤差は、指定しない群番号メモリ又は特定群コードを呼び出し6=50
   の群番号を押して群番号右下に“0”を暗証マークを表示させます、(パーソナルコードに
   よるマルチモードの群番指示は必ずメモリが必要です。)
4 指定できるパーソナルコードによる群番号は4メモリと2メモリです。指定の変更はすで
   に指定されてる群番号の群番号を書き換えるか、(そのままでのマーク“0”を付ける。) 我
   々を受けける群番号を呼び出して6=45とキーを押して群番マーク“0”を消去してから
   前項に指定する群番号のメモリを呼び出して4の群番号を押して群番マーク“0”を付ける。
5 シングルモード待ち受け（“MULTI”表示が消えているとき）
   ・シングルモードでは表示された群番号に自動的に群番マーク“0”が付くので（メモリ
     を払い込むと反時計方向では入力の群番）群番号を表示させるとこの群番号に待ち受けできます。
   ②シングルモードでは表示している群番号およびライン選択詳細の群番号のみで待ち受けし
     ます。

-13-
2. 群番号の設定

(1) 群番号のメモリー

ノートリー“1”に群番号“55925”をメモリーする場合には、
① → ② → ③ → ④ → ⑤ → ⑥ → ⑦ → ⑧ → ⑨ を続けて押します。

(キーボード) （ディスプレイ）

群番号

"55925"

(メモリー)（ディスプレイ）

以上のメモリーは完了です。前の①を②にするときメモリー“1”へのメモリー、
以下の③から⑩まで同じ方法でメモリー“2”～“9”に群番号をメモリーすることができる

途中で間違えた場合にはこの操作をやり直してください。群番号の設定は“READY”が
消灯しているときのみ可能です。

メモリー“1”から“9”までの10メモリーはすべて通信（呼び出し）から始める相手
には使用できますが、受信（待ち受け）から始める通信では待ち受ける4メモリーを指定
している群番号で呼び出しを受けた時に通信に入るマルチモード待ちを受信（①→②→③→④
からディスプレイ右上の“MULTI”を表示させた状態）とメモリーに関係なく、ディスプレイに表示されている群番号で呼び出しを受けた時に通信に入る単一モード待ちを受信（ディスプレイ右上の“MULTI”を表示させた状態）の2通りの待ち受け方法があります。
2. メモリした群番号の選び方

メモリした群番号を他のメモリに移すことができます。例えば、メモリ "5" に入れた群番号をメモリ "1" に入れる場合は "3" と押してメモリ "5" の群番号と呼び出し "3" と押すだけでメモリ "1" にメモリ "5" の群番号がメモリできま
す。ただしメモリ "1" に入れてあった群番号は消えますからご注意ください。またメモリ "5" の群番号はそのまま残り、メモリ "1" と "5" は同じ番号になります。

1. 数値キーによる群番号の読み出し

キーボードの "1" 〜 "0" のキーを押することにより、各メモリに対する群番号の読み出しできます。この場合、前の項目や操作毎に "READY" が表示されている項目に
はRESETキーを押して "READY" を消してから数値キーを押してください。

<table>
<thead>
<tr>
<th>キーボード</th>
<th>ディスプレイ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>755925（メモリ &quot;1&quot;）</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>755926（メモリ &quot;2&quot;）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

サーチモニター中（MONの点滅中）の場合もMONキーを押してサーチモニター
するか、RESETキーを押してリセットしてからメモリの読み出しをしてください。

### 群番号などの表示の変更（CLEARキーの動作）

使用している群番号などを他人に知られたくないときにはCLEARキーを押して群番号などを
表示を消すことができます。CLEARキーは "READY" が消えていきと表示または点滅
しているときで次のような関係になります。

<table>
<thead>
<tr>
<th>READY点滅時</th>
<th>READY点滅又は点灯時</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一度目の &quot;C&quot;</td>
<td>クリア（一度消え、5秒後に表示）</td>
</tr>
<tr>
<td>二度目の &quot;C&quot;</td>
<td>ブランク（= = = = = = = = 表示）</td>
</tr>
<tr>
<td>三度目の &quot;C&quot;</td>
<td>通常表示に戻る</td>
</tr>
</tbody>
</table>

* 消えている5秒以内に、あらたな群番号を入れた場合、途中で5秒以上の間隔をあけ
ると前の群番号に戻ります。
(4) マイクロロンによる群番号の読み出し

マイクロロンのSELボタンにより一般呼び出しの"00000"とメモリー"1"〜"0"の群番号がメモリー番号順に、さらに5つの特定群コードを読み出します。「READY」点灯中の"MON"点滅中のSELボタンを押してリセットしてからSELボタンを押してく

ださい。

（マイクロロン）

SEL ･･･････････････ 00000 ････････････（"CQ"）
SEL ･･･････････････ 55925 ････････････（メモリー"1"）
SEL ･･･････････････ 75990 ････････････（メモリー"2"）
...
...
SEL ･･･････････････ 255973 ････････････（メモリー"0"）
SEL ･･･････････････ 625edC ････････････（定電流用途）
SEL ･･･････････････ 8590cc ････････････（定電流用途）
SEL ･･･････････････ c590dc ････････････（定電流用途）
SEL ･･･････････････ c95dc9 ････････････（定電流用途）
SEL ･･･････････････ 859900 ････････････（"CQ"）

SELキーを続けて押してください。途中で5秒以上間隔をあけて次に押すと、最初の"CQ"の位数の"00000"に戻ります。

* Aコード、Bコードの2つは予備に設けられた特定群コードで、使用目的は現在まだ決定しておりませんが、特定群コードとして使用できます。なおBコードは小ゾーンモー

ドになります。

(5) 群番号をメモリーに変換する方法

一時的に使用する群番号などはメモリーに直接値をキーで直接群番号を入力表示させて変換できます。たとえば、実際には"086940"の群番号で変換したい場合、

(5) ･･･････ 08694 ･･･････ 40 ････････････と続けて押してそのまま変換できます。この場合はマルチモード待ち受け（"MULTI"表示）では呼び出しを受けての変換はできませんから、F7 + T5 と

押してシングルモード待ち受け（"MULTI"消去）にしてください。
3. 送信（呼び出し）から始める交信

(1) 交信方法

・キーボードより群番号をセットします。
・群番号“00000”はICQキーでセットできます。

・PTTスイッチをワンタッチ操作で押します。
・ディスプレイの“CALL”、“TX”とPOメーターが点滅して“READY”が点滅します。
※SBPOメーターの動作説明は、受信時にはSメーターとして、送信時にはPOメーターとして表現しております。

・“READY”が点滅しないときは一度不活のRESETキー又はマイクロコンのRESETキーを押してしばらく待ち、再度PTTスイッチをワンタッチ操作で押します。
・PTTスイッチを押し、送信チャンネルがあいていれば自動的に送話可能な“READY”の点灯し、送信モードにして“TX”（送信）表示します。

（注）PTTスイッチを押したままでも、送話チャンネルがあいていれば自動的に送話可能な“READY”の点灯し、送信モードにして“TX”（送信）表示します。
“CALL”が点滅したままで“READY”が点滅または点灯しない時は、送話用チャンネルのすべてがふさがっている時は、本体のRESETキー又はマイクロコンのRESETボタンを押してしばらく待ち、再度PTTスイッチを押してみてください。
（注）送信出力5W時のPOメーターの点灯フレームスケールまで点灯しますがLOWパワー（0.2W）時にはバーが3本だけ点灯します。送信出力がディスプレイによって一目で確認できま
すので効率の良い交信ができます。
・"READY"が点滅をはじめから約30秒以内に「00000」に変わる時でPTTスイッチを押して"READY"を点滅にかえ呼び出しします。
・"READY"の点灯とともに送信時は"TX"受信時は"RX"が点灯します。

応答があると5メートルが電波の強さに応じて左から順に点灯します。

相手側が発信すると5メートルが緑灯し、PTTスイッチを押しながら通話して受信に入ります。

PTTスイッチを押して通信用態にすると、押した時、離した時、そして通信中1分ごとに制御信号を約0.2秒間自動的に送信します。

-21-
● 送信が終了したら、RESETキーを押してリセットします。
● "READY" が点灯して待受け状態となり、再開にAメモリー5分タイマーがスタートします。

● さらに5分経過するとAメモリー3分タイマーは切れます。「Aメモリータイマーが切れ際には予告はありません」

※ 伝送が終了してもRESETキーを押してリセットしないと、自動復帰するまでの5分間、常に送信していた通話チャネルを受信し続けます。またこの状態では通話チャンネルは空チャンネルとみなされ他局の信号が入ってくることがあります。
※ Aメモリー5分タイマーの検知時間は「F+3」と表示しディスプレイに表示されます。

■ TXタイマー

送信の連続は5分間です。4分経過すると"TX" 表示が点滅をはじめ10秒間に電子音の予告が鳴って自動的に送信が停止します。「その時の通話チャンネルで受信も停止」

■ RXタイマー

受信の途中で送信操作を触れると相手局からの制御信号5入感応状態が5分間続くと受信状態（"READY" が点灯）で自動的に "RX" 表示が点滅をはじめ10秒間に電子音の予告が鳴って自動的にリセット状態になります。なお、通常伝送中では相手局の送り始め、途中1分間経過すると、送信課程に出る制御信号でRXタイマーは新規スタートになります。

■ リセット後の待ち受け番号について

受信後のリセット後の自動復帰によるリセット後の待ち受け番号は、マルチモード待ち受け時には指定した0メモリーの番号、レングルモード待ち受け時には表示している番号又は緊急通信用コードでの待ち受けになります。
2 自動復帰

■ 交信終了後、RESETキーを押さずにそのまま放置すると約4分後に"RX"表示が点滅をはじめ、さらに約1分経過すると電子音の予告音がって自動的にリセットします。

■ 自動復帰の場合にも、メモリー5分タイマーが動作します。

■ タイマーは5分経過するとメモリー5分タイマーは切れます。（メモリータイマーが切れる時は予報はありません）

■ メモリー5分タイマーの動作と表示について

- 交信終了後のリセット操作や自動復帰によるリセット後、5分間通話チャンネルをメモリーするタイマーが動作します。時間経過は、[F + 3]のキーを押してタイマー表示モードに設定しておくと、タイマースタート後約1分間の通話はRESETキーを押すことに3秒間だけ5分タイマーの残り時間をつまように表示します。

- タイマーが動作している間はMONキーを押すと、先に通話していたチャンネルに戻れます。

-50°
-45°
-33°

- チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示

- チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示

- チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示

- チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示
  - チャンネルの残り5分表示
ワンポイントアドバイス

パーソナル無線の使用制限

1. Q-CQメール（不定期局相手の文書）

アマチュア無線の「ハローQ-CQ」と同じ意味で、不定期の相手と呼び出して行う文書です。本機では、Q-CQメールの相手を探すためにマイクロホンのSTEPボタンを一度押すと自動的に呼出番号が"Q0000"になります。

手順が行なわれた後、道をたずねたり、見知らぬ人と友人になったり、交通情報を交換したり、電話が例時まで遅いているかを知りたい悪いなどにQ-CQメールを行います。

自分の発信・受信・番号・姓名・現在地などを伝え合い、文書の文書は自由ですが、使用時には十分注意しましょう。

Q-CQメールを応答する場合に他局の発信に応答を開始した後、文書を受信します。

そしてタイミングを計って受信中の文書の送信完了時に聞く送信して声をかけましょう。

受信中に回線から声がかかったり、伴件に入れて電話に依頼しました。無理やりに文書に取り込まれて、形態することは絶対にやめましょう。

2. パーソナルメール

友人またはグループで“00001”−“99999”の任意の番号を決めておき、他のグループが参加のないグループだけのパーソナルメールが行える。文書や文字、楽曲、友人間の連絡など不定期の相手局と行う文書です。

ある場合のグループ同士で番号を決めてパーソナルメールを行います。番号が異なるときは文書に加わることはできませんが、送信状態を復元でも受信できますから使用には注意して使用しましょう。

---

ROMカートリッジなしでの操作のしかた

① 電源、アンテナ、マイクロホンを装着して通常のスイッチを入れます。
（上述のVOLを押す）

② ROMカートリッジなしでの操作は、基本操作とは同じですが、マイクロホンのPTTスイッチを押しても送信できません。

③ ただし、Q-CQメール、パーソナルメール、モニターポートの送信を除くすべての動作ができますので、ROMカートリッジが策先より送信されるまで、操作を進めることができます。（リコールも送信操作になるためROMカートリッジなしではできません）
4. 待ち受けから始める伝信

(1) 交信方法

・CQコールの場合はCQキーを押すか、キーボードにより群番号“00000”を入力し、シングルモード又はマルチモードで指定したメモリーで待ち受けています。

・パーソナルコールの場合は、キー操作により次の経過を読み取った群番号をシングルモードで表示させると、マルチモードで指定の4メモリーの一つで待ち受けています。

・呼び出しを受けると“READY”が点滅又は点灯し、5メートルが電流の流かに応じて点滅から順に点灯します。（注）

・“READY”が点滅しよめてから30秒以内（群番号“00000”又は特定群コードのときは約10秒以内）にPTTスイッチを押すとMONキーを押します。

・“READY”が点滅から点灯にかわって通信可能になり、5メートルが相手局の電流の流れに応じて点滅から順に点灯します。

注: パーソナルコールまたはリコールを受けた時、すぐに応答しなくても30秒以内に間に呼ばれた局からも呼び出し信号があると自動的に“READY”は点滅から点灯にかわって短時間待機状態になります。（CQコールや特定群コードの場合は10秒以内にPTTスイッチを押して“READY”を点灯させます）
ワンポイントアドバイス

パーソナルコールを効率よく行う方法

1. 新しく入ってきまった番号をマルチモード受信またはシングルモード待ち受けの方法で設定しておくこと。
2. 打ち合せ中のグループが待ち受け状態にあること。（同じ番号でリセットして使うこと）
3. 予想した時間に呼び出し操作をするのを忘れずを決めておくこと。
4. 予想した時間に遅れたとき、通信が途中で途切れた場合に“リコール”を行なけりを決めておくこと。

通信中でもなお通信しない状態が続いた時には、その通話チャネルが空チャネルとみなされ、他のグループが通話を始めても通話が妨げることがあります。またグループ内でドライプしている時には、他のグループが同じ通話チャネルを使用して通信している通話に介入して通信を妨げることもあります。このように群雑な状態でもなお通信を妨げることがありますからお互いに諦めてください。グループ同志で打ち合わせてどちらかのグループが通話セッコトを再びパーソナルコールを行ない前の通話チャネルに戻って通信しましょう。
呼び出しを受けても受信をしたくない時/しなかった時

①

- 呼び出しを受けると "READY" が点滅
  又は点灯しメーターの電流の値によりて左から順に点灯します。
- "READY" の消灯し、待ち受け状態になります。「Aメモリー5分タイマーがス
  タートしますから、5分間まではモニターコールの方法（30ページ後）で避け
  ます。

②

- 呼び出しを受けた時、50秒以内（番号
  "00000" 又は特定番号コードのとき
  は50秒以内に応答しないで放置してい
  ると "READY" が点滅して、自動的に待
  ち受け状態になります。（5分間はAメモ
  リー5分タイマーが動作し、5分後に A
  メモリー5分タイマーは切れます。)
リコール

特定番号と交信中に、相手側が自動リセットになったり、誤ってリセット操作をして交信が途絶えてしまったときに呼び戻す機能です。

（あなたが「00000」で呼びかけたときと１分通話モードで呼ばれたときに、もしくはエラーが発生したときに呼び戻す機能）

音声がリセット状態になった場合には、次ページのリコール呼び出され機能を行ない相手側からの「リコール」を持ちます。

（1）リコール呼び出し

• "READY"が点灯中に、相手側の信号が聞こえなくなったとき。

• RECALLキーを押すと、"READY"が消えて、"CALL"とPOメーターが一瞬点灯し、"READY"の点灯に戻ります。

• 相手側が応答してきたら通常の交信に入ります。
リコール呼び出し

1. 特定席と交信中に、交信が途絶えてしまった時にはリセット操作をして待ちます。
2. リコール呼び出し入ると“READY”が点滅します。
3. 応答すると“READY”が点灯して通常の交信に戻れます。

グループ交信のときに、遅れた場合にはリコール呼び出しで交信に加わることもできます。遅れた場合は、群番号をエントリリセット操作し、交信中の窓側はリコール呼び出しをしてください。
交信が中断してしまったとき

重のパックで通信している際に、絶句のためにイクイションキーを切っ
た時など、一方無線が切れるとリセットしてしまいますが、交信が途切れた時のために、同じく
ってリコール操作などの遅延の取り扱を決めております。

リコール

パーソナルコールで交信中に相手が途切ってリセットしてしまったり、ドライプ中や電
流の制御装置から外れてしまい、通話が分以上途切れて自動的にリセットしてしまった
場合など、“READY”が消えて受信状態になってしまったり相手局を呼び掛ける機能からリコ
ールです。

通話チャンネルに接続して交信を続けていると“READY”が点灯しRECALLキーを2.3
回押しします。リコールを受けた端は“READY”から消えて交信に復帰することができま
す。

また、時間を決めてのグループ活動のときの事前遅延に途切れてしまった局をリコールによ
って呼び掛けることができます。時のRECALLキーを押してみよう。ただし通信指
点“D0000”のCQ局での交信状況および受信状況になってしまった局（“READY”
消灯）の場合はRECALLキーを押してもリコール操作による復帰はできません。
電源が切れてリセットした場合

① リセット機能（ただしCQコールのときは優先されます）

② バーソナルコール機能

③ モニターコール機能

伝信中にリセットキーを押した場合（Aモニター5分タイマー ON）

① CMタイマーOFFのとき

② CMタイマーONのとき

5分以上伝信が途切れた場合（Aモニター5分タイマー OFF）
リコール機能（2ページ参照）

自動的にリセットしたり、通話中に5分以上保たれ自動的にリセットしない受話側機器（"READY"非表示）になっている場合、相手側がリコールされるまで待つ。

パーソナルコール機能（2ページ参照）

再生直リセットしてあらためてパーソナルコールを行う。

モニターコール機能（4ページ参照）

スナップモニターまたはサーチモニターにより相手側をみかされ"READY"が点灯する
ことを確認し、PTTスイッチを押すと通話状態になります。

Aラジオコール機能（10ページ参照）

Aラジオ1台タイマーが動作している間は、MONキーを押すと"MON"が点灯し、
先に通話していたチャンネルの通信に変わり、相手局の制御信号を入信すると"READY"
が点灯して通話状態になります。

GM（チャンネルメモリー）

モニターコール機能（4ページ参照）

GMタイマーが動作している間はRECALLキーを押すと"MON"が点灯し、先に通話し
ていたチャンネルに切り、相手局の制御信号を入信すると"READY"が点灯して通話状
態になります。
6. モニター

* 連続の受信を聞くモニター受信をすると操作です。（ステップモニター、サーチモニターともに通信チャンネルの番号はランダムでエンドレスに動作します。）

(1) ステップモニター

- MONキーを1秒間のランダム操作で押します。
- "MON"が点灯にモニターできます。
（幹番号が関係なくモニターできます。）

- MONキーを押すたびに、1チャンネルずつランダムに切り換わり、各局の受信をモニターできます。

(2) サーチモニター

- サーチモニターで受信中のチャンネルを探査するためには、あらかじめモニター受信中で信号の入らない時（無信号時にスクリーンが暗い）データが入った時にモニターオプションボタンにSQLツマミを調節しておきます。

- MONキーを約1秒間 "MON"が点滅し続けるまで押します。
途中で信号がなくても5秒間はそのまま送信しています。

5秒経過すると再びサーチモニターを始め、他の信号をさがします。

サーチモニターで受信した信号とそう遠い時は、受信している5秒の間にMONキーを押してサーチを止めます。

MONキーは点灯にかわり、その信号を調解送信できるステップモニターになります。

[3] モニターの解除

-RESETキーを押してリセットします。
- "MON" が消え、待ち受け状態になります。
7. モニターコード

(1) モニター受信から交信に入る方法

- モニター中に受信した群番号と自機の群番号が一致すると "READY" が点灯します。
- 側線の変更をモニター受信しているとき、シングルモードでは表示している群番号と、またマルチモードでは待ち受け指定した群番号と変信中の群番号とが一致すると "READY" が点灯して交信できます。

- PTTスイッチを押すと "MON" が点灯して "READY" のみの水灯になり、通話状態になります。
- PTTスイッチを押しながら通話し、交信に入ります。
- 交信が終了したら、RESETHキヤを押しでリセットします。
- "READY" の再点灯、待ち受け状態になります。
- モニターコードから交信に入った群からは交信が途切れないモニターコール呼び出し（35ページ参照）はできません。
"READY" が点灯しても交信せずに他の局を受信したいとき

- MONキーを押してモニターを伝送操作を行う。
  (あらたなステップモードまたはサークルモードで戦略的チャネルを受信します)

- "READY" が点灯し、他局のモニター受信が行えます。

(撮影場所がハブグーンモード又は1分モードのときは再生帯が、1分モードのときは再生帯カートールはできません。)

**ワンポイントアドバイス**

アマチュア無線では受信者によってはユニークな会話を楽しんでいますが、これからの無線はハブグーン無線でもっとも変われますので、主なものは話していると便利です。よく理解すれば会話が楽しめます。

<table>
<thead>
<tr>
<th>コード</th>
<th>重 種</th>
<th>使 用 例</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>QRA</td>
<td>ザ・リーグ</td>
<td>軍のQRARは、藤田です</td>
</tr>
<tr>
<td>QRW</td>
<td>了解</td>
<td>QRWワイプ（メリット5のこと）</td>
</tr>
<tr>
<td>QRL</td>
<td>良いこと</td>
<td>いいQRRL、デルタ</td>
</tr>
<tr>
<td>QRM</td>
<td>通報</td>
<td>いつもQRRMでしてませんが</td>
</tr>
<tr>
<td>QRN</td>
<td>ノイズの保護</td>
<td>いつもQRNNでしてっこぐたがてまで</td>
</tr>
<tr>
<td>QRG</td>
<td>無線機の出力を上げる</td>
<td>かわってQRGGでしましょう</td>
</tr>
<tr>
<td>QRT</td>
<td>無線機の出力を下げる</td>
<td>5帯から0.7帯にQRRTしましょう</td>
</tr>
<tr>
<td>QRD</td>
<td>信号停止、略号</td>
<td>今日だけはQRDDしましょう</td>
</tr>
<tr>
<td>QRQ</td>
<td>録音できることがなくなっ</td>
<td>こちらはQRQQです</td>
</tr>
<tr>
<td>QRU</td>
<td>ちょっと寝てください</td>
<td>QRUUでないか</td>
</tr>
<tr>
<td>QRZ</td>
<td>だんだんこんどりとしな</td>
<td>QZZこともは上手です、高度ハードルだと言われ</td>
</tr>
<tr>
<td>QR2</td>
<td>表示を上げてもらう</td>
<td>わざわざQR2で言う</td>
</tr>
<tr>
<td>QSL</td>
<td>表示を下げる</td>
<td>QSLマナーで言う</td>
</tr>
<tr>
<td>QSO</td>
<td>通話する</td>
<td>明日、無線さんQSOしましたよ</td>
</tr>
<tr>
<td>DSP</td>
<td>パス</td>
<td>この国、直接QSOしてください</td>
</tr>
<tr>
<td>DEY</td>
<td>順番を守る</td>
<td>先生の眼鏡を守るもう一職者から</td>
</tr>
<tr>
<td>QTH</td>
<td>現在地</td>
<td>こちらQTHは大変です</td>
</tr>
</tbody>
</table>

---
工事の進行について

アンケート

1. 員工の満足度: （　）
2. 仕事のストレス: （　）
3. 仕事の意義: （　）
4. 期待の対応: （　）
5. その他: （　）

回答者氏名: （　）

回答日: （　）

工事の進行について

アンケート

1. 員工の満足度: （　）
2. 仕事のストレス: （　）
3. 仕事の意義: （　）
4. 期待の対応: （　）
5. その他: （　）

回答者氏名: （　）

回答日: （　）
その他の機能と動作

1. ハゾーンモード（LOCALの使いかた）

数字メールの送受信通信や、外線同士の通話を使用した場合には、小ゾーンモードに切り替えすることにより通話の低い音の少ない通信ができます。

①undy帯のキーを押して"LOCAL"を表示させます（特務群コードリセット：GG + X）。
②コードリセット：GG + Xは、自動的に小ゾーンモードになります。
③呼び出し時、呼び出しモードのとき小ゾーンモードにすると自動的に15CHモードになります。（FY + Xのキーを押して小ゾーンモードにしたとき、さらにFY + Xと押して小ゾーンモードを解除しても15CHモードにはなりませんので相手側が旧システムのハーフモード無線機の場合にはFY + Xを押して15CHモードに変えてください。
④呼び出し状態で小ゾーンモードに設定してPTTを押しとき、相手局（新システムの場合）も自動的に小ゾーンモードになります。受信イヤホンにて小ゾーンモードの解除やミュートコールはできません。
⑤受信イヤホンにて小ゾーンモードにしたとき、相手局は小ゾーンモードになりません。ただし小ゾーンモードの解除やミュートコールを行うことができます。

2. 切断信号の使いかた

応答（“READY”の受信、ただし受信に移動から次の1秒後）にXキーを押すとRLS（リセット）動作になり切断信号が選信されてリセット（呼び受信、呼び出し可能）にされると相手局（和室全体）も呼び受け状態になりますが、すぐに切断信号があたりして小ゾーンモードに移るときなどなどの作業の他に他のチャンネルに移ることができます。

なお“READY”が点滅してから1分以内にRESETキーを押したときにPOキーやサインが振れている切断信号が出ます。1分経過すると別のリセットのみになります。
⑥キーや押したときには時間帯によっては関係なく切断信号が出ます。
“READY”が見えている時にXキーを押すとławイーニーの群呼・メモリー呼び出しになります。
⑦受信コードとCGが表に“O0000”で呼び出された場合にXキーあるいはRESETキーを押しても切断信号は発生できません。呼び出し状態からの変更はできません。
*旧システムのハーフモード無線機は切断信号を受信しても自動的にリセットされません。
３．１分通話モードの通信について

１分以内で終わる通話や登録の連絡などを行うときに１分通話モードを使用すると通話の短い通話ができます。
１分通話モードに設定するには[0]キーを押して[0]のマークを表示させてください。
（同様に呼び出された相手側も自動的に１分通話モードになります）

※１分通話モードで呼び出された側からは１分を過ぎると再生録録されてもリコール呼び出しはできません。

（注）１０CHモードのときに１分通話モードに設定すると自動的に１５CHモードになります。
タイマーの残り時間を見る場合、[4]キーを投入します。このタイマーは当局と相手局（複数の場合はそれぞれの局ごとの別に）の下の図のように表示します。

相手局の残り時間の読み取り・表示
（伝出スイッチでカウンタダウン）

このタイマーが動作したときは早めから関係局のタイマーで通話時計が停止されます
手順2に通信を行って見切れないないようにしてください。

- 48 -
4. 通話時間制限タイマー

通話チャンネルが余裕していると自動的に通話時間制限タイマーが動作します。
通話時間制限は1分と5分の2種類のタイマーがあります。

(1) 1分通話時間制限

15秒のときに通話チャンネルが一時で呼び出しを行っている“RAEDY”が点灯しない場合、自動的に通話時間を1分に制限した1分通話モードになります。
タイマー残り時間の表示は46ページを参照してください。

(2) 5分通話時間制限

電源をONにしてすでに空チャンネルがないときまたは通話中にチャンネルが混雑して空チャンネルが少なくなるとすぐに5分間の制限タイマーが動作します。
このタイマーの残り時間を見る場合にキー+ キーとキーを入力します。このタイマーは自分と相手局（複数の場合はそれぞれの局ごと）に適用するように表示します。

自局の制限時間の残り1分以下 相手局の制限時間の残り4分以下
(10秒ステップでウオウンダウン) (30秒ステップでウオウンダウン)

このタイマーが動作したときは早く通信局のタイマーで通信時間制限されますから
手元または相手局に通信を行っていることにならないようにしてください。
このタイマーで通信が切れた場合、同じ番号で1分間待ち受けてできません。

- 47 -
5．チャンネルメモリー（CM）タイマーの動作と表示について

1）モニター受信時および送信時に、使用している呼び番号と通話チャンネル（モニター
受信時では通話チャンネルのみ）を15秒間記憶するのでCMタイマーです。

2）アメノータイマーはリセット値をとるため、自動的にその時に使用していた通話チ
ャンネルを記憶してタイマーが動作しますが、CMタイマーは次の条件の時に[① + ②]
とキーを押すと、その時に使用していた群番号と通話チャンネルを記憶して、15分タイ
マーが動作します。

CMタイマーを動作できる条件と、その時に記憶する群番号と通話チャンネル

* "READY" が点灯している交信伝送状態のとき。
  ○伝送に使用している群番号と通話チャンネルを記憶。
* "READY" が点滅している通話伝送中のとき。
  ○通話設定に使用している群番号と通話チャンネルを記憶。
* "MON" が点灯中のステータスモニターのとき。
  ○モニタ受信している通話チャンネルのみを記憶。
* サーチモニター中（"MON" が点滅）でも信号を受信して3秒間サークルを停止して
  いる時には、MONキーを押してステータスモニターに切りかえればCMタイマーを設定で
  きます。
* "CALL" の点灯中（当初の呼び出し中のリコール呼び出し）および通信中（TX点
  灯中）には、CMタイマーの設定はできません。

3）Aメモリーチ15分タイマーは途中で通信操作を行ったりすると、自動的にTXタイマー
（通信中）、RXタイマー（受信時）を続けてあまりその前の通話チャンネルを記憶し
て動作しませんが、CMタイマーは[① + ②]を押した時点からのみ動作する規定したタイ
マーですので、動作中に群番号や通話チャンネルを変えるも記憶している内容は変わりま
せん。

4）CMタイマーが動作中に、CMタイマーで記憶した群番号と通話チャンネルを使用し
て続けられている交信に従事には、一度RESETキーを押して待機受信状態に戻し、RECALL
キーを押して記憶していた通話チャンネルをモニターします。交信を続けていた局の受
信する制御信号が入ると "READY" が点灯して交信可能な状態になります。

-48-
5）CMタイマーが動作している時間は15分間です。ただし、その間に待ち受け状態でRECALLキーを押した時、または電源スイッチを切った時にはCMタイマーは切れます。

6）CMタイマーが動作するとリセットボタンはスイッチに下記のような時間表示が出て（タイマー表示モード時）CMタイマーの残り時間表示を示します。

```
150-50
```

7）CMタイマーが動作している時に [↑] または [↓] キーを押すと、その前の番号と直
接チャンネルをあたたメモリしてCMタイマーが再スタートします。
6. INCOM（不在時着信）表示

呼出番号“00000”および対定的コードを絵と群番号によるパーソナルコードを受けた時、不在などで応答していないと示されていると呼ばれる群番号をモニターしたモニター番号を次の様に表示します。

シングルモードのときは

マルチモードのときは

※メモリーに入っている着信番号（一時的に設定した群番号）で呼ばれた場合は、"C"のみの表示となります。
図番号に呼ばれた群番号のメモリー

図番号に呼ばれた群番号のメモリー

5番目以降の呼び出しを受けると最初に呼ばれた群番号メモリーから順に呼び出しの型でメモリー番号を表示します。呼び出しを受けてから“READY”点滅又は点灯状態では、DCOM表示でなく呼ばれた群番号を表示します。
7. 特定群コードの使い方

(1) 緊急連絡用群コード（Emergency Code）

事故の発生などを緊急に連絡したい時にお使いあるコードで、通信範囲内で待ち受け状態
(RESETして)で待機している群を警告にかける（呼び出し連絡ができる特定コード
です。このコードは緊急マーク“S”を消せません）

緊急連絡用群コードでの呼び出し方法

① RESETキーを押す。（モニター状態を解除して呼び出し可能にする）
② ECキーを押しながら（群番を表示が EcodE になる）
③ PTTスイッチを5秒間押し続け、ビープと連続音

出るの（ここではECキーは必要に応じて）連絡音が止まるまで押してからPTTスイッチ
をはなして READY が点滅すると連絡に入れる。

緊急通信という表現は電波法に規定した緊急通信を行う場合以外には使わないようにご注意
ください。
交通情報用コード（Path Code）

交通情報の送信に使用するコードで、Pcode に番号機能「FV4-M5」の場合は番号マーク“〇”を消さないときを指して説明している局を呼び出します。

- 交通情報用コードでの呼び出し方法
  1. RESETキーを押す（呼び出し可能にする）
  2. CQキーを押し、続いて△キーを押す（番号表示が Pcode になる）
  3. PTTスイッチを押して Pコール呼び出しを行い、“CALL”の点灯から READY の点灯に Pコードでの通話に入ります。
  4. Pcode 呼び出しを受けたくなければ、特定コード Pcode をお示しせると△とキーよ押して番号表示下の番号マーク“〇”を消してください… "オールスターモード時、番号マーク“〇”を付ける際には△とキーよ押す"
（1）高速道路用慣用コード（Highway Code）

高速道路の走行中の車両内の情報を情報交換するのに便利なコードで、Mcode に用いられる機能を持たせて待機している局を呼び出します。

● 高速道路用慣用Mコードでの呼び出し方

① RESETキーを押す（呼び出し可能にする）
② COキーを押し、続いて PTTキーを押す（群番号表示が Mcode になる）
③ PTTスイッチを押してMHコード呼び出しを行い……以下の操作はPコードと同様です。

① Mcode 呼び出しを受けた場合、Mcode を表示させ、② COキーで連絡マーク“O”を消す……マルチモード中、①②③④⑤キーで再びマーク“O”が付きます）
(4) 近傍車通信用コード（Local Code）

電磁波で通信できる距離数（数百メートル）間の通信を有効に行えるコードで、`LcodeE`に着時機能を持たせて待機している時に呼び出します。

●近傍車通信用コードでの呼び出し方
① `RESE`Tキーを押す（呼び出し可能にする）
② `CQ`キーを押し、続けて `RX`キーを押す（群発信指示が `LcodeE`になる）
③ `PTT`スイッチを押してコード呼び出しを行うが、以下の操作はPコードと同じです。
④ コードの時には自動的に送信出力と受信感度を下げるダウンモードになります。
⑤ `LcodeE`での呼び出しを受けたが、呼び出し指示を含まないときは `TX`キーで着時マーク `O`を消します。

...マルチモード時、 `[PTT]`で着時マーク `O`が付きます

---

- 13 -
（5）その他の特定コード（A Code, B Code）

予備に設けられたA B 2つの特定コードがあります。Aコード、Bコードのように使用目的は現在は定められていませんが、呼び出し、待ち受けに利用できます。なおBコードはAコードと同じゾーン内です。

・Aコード、Bコードでの呼び出し方
① proponentsキーに続いて【キーを押すとAc ode、C0 ー 9 とキーを押すとbcodeを表示し
てAコード、Bコードの呼び出しできます。
②以下の操作はPコードと同じで、着後マーク“O”の消去、表示方法も同じです。
【キーで表示、Pキーで消去）
8. 音による操作・動作の確認

FYA-555 は、キー操作が確認された時に操作確認音、各種機能動作時に動作確認音が出ます。ただし、キーを押しても操作確認音が出ない時は、そのキーの動作が行われない時です。

■ 操作確認音を発する操作

● キーボードのBEEPキーをすべてのキーイーグ（PTTスイッチを含む）を押して、その操作が有効なとき。
● 呼び・動作確認音を出すためにBEEPキーを押したとき（操作・動作確認音を止めるためにはBEEPキーを押した時には、操作確認音は出ません。）
● マイクロホンのPTT、RES、SELボタンを押したとき。

■ 動作確認音を発する操作

● 電源スイッチを入れたとき。
● CALL時に“READY”が点滅して通話が可能になったとき。
● RECALL操作を行ったとき。
● 呼び出しをしたとき（RECALL呼び出しを含む）。
● 連絡送信でTXタイマーが切れる10秒前と、同トーキャナルでの受信待機でRXタイマーが切れる10秒前の予告信号。
● マイク音を鳴らす時のチャンネルを受信したとき。
● マイク音を鳴らす時の送信者の呼び番号を表示したとき。
● 呼び出し停止のための呼び番号信号。

～51～
故障？と思う前に
故障修理をお勧めする前に、次のことをお確かめ下さい。

（1）電源が入らない
① 無線機（電話、ペーパーフィシャ）のケーブルが外されているか、接続されていますか。
（外側去掉部、引込部分などのカバーも）
② ペーパーフィシャの電源は正しかったですか（熱エッジが保たれていますか）
③ 電源ケーブルの接続は切れていませんか。接続が終わっていませんか。電源ケーブルが正しい位置に設定してあるか、接続ケーブルの接続がなされてシートしていないかなどに接
続が切れた原因を調べ正しいようにしてからケーブルを接続して下さい。

（2）電源は入るが、送信も受信もできない
① 無線機とアンテナが正しく接続されていますか。アンテナやブラケットの端元、折曲げ
部分、引込部分で同軸ケーブルが接していないか、（断線、ショート）

（3）受信できない（スピーカーから音が出ない）
① バーチャル無線機は、時計状態にあるときはキー操作の信号音以外の音が出ません。
② 音量調整部（VOL）を時計時方向に回していませんか。
③ ステルス設定（SW）を時計時方向に回していませんか。（MONキーを押して、
信号音は音が入る信号音時の音が入りますか）

（4）送信できない
① 無線機のREADY表示がついていますか。（送信操作の手順を再度調べてください）
② マイクロホンは無線機に完全に接続してありますか。
③ 電流制限値より過度であった信号強度のROMモードリッジが正しく取り付けてあ
りますか。
(5) 呼び出し)から始める操作はできるが、待ち受けできない

① 待ち受け状にリセットしていませんか。
② マルチトーン呼び受けの時、呼び受け群番号のメモリーに在有マーク“O”を付け
てありますか。
③ シングルモード待ち受けでマルチモードのときに在有マーク“O”を付けたメモリー
の群番号で呼び出しを待っていませんか。（シングルモード呼び受けでは表示して
いる群番号以外の群番号では呼び出されません）

(6) 感度が悪い

① アシナネは正しく取付けてありますか。チャレンジを外してみたかったり、機の電源部分
に触れたりぼたんだいと思いますか。
② 回路ブロメル、コネクタ部に異常はありませんか。
（小商品、表面を触るなどに無理な力をかけてしまったんか？）
③ 電源電圧（バッテリー）が低下していますか。
④ アシナネの側面（音の位置）がヒールなどの置物に当てばいませんか。
⑤ 回路ケーブルが破れたり、必要以上に長くありませんか。

(7) メモリーが溢れる（バックアップできない）

① バックアップ機能が動作しないし、バックアップ電池（リチウム電池）の寿命と
考えられましたら、サービスステーションにて交換して下さい。（有料）

(8) 電源が入るが操作できない

① 電源投入時に、電極欠損の外相要因により機能が故障することがあります。
② ROMホルダー・ソケットの部分に小さいレールがあり、これを取ると小さい火花が開
いしています。電極スイッチをOFFの位置で点火を止めるような機能が有しているか
しい。電極スイッチをオフにしてからもう一度お試しください。無線機の動作は正常
になります。

(9) エンジンを起動したら運用状態が変わってしまった

① エンジン起動時は高電圧により、バッテリーの電圧が低下してリセット状態に変わっ
たと思われます。12～14ページを参照して運用状態を点検してください。
定格

一般定格
電波型式
F2C(製造チャンネル)
F3C(通信用ネルトンネル)
電波数範囲
903.0125~904.9875MHz
通信方式
単音方式
発信方式
水晶発振器制御電流変流式シングレサ方法
音調方式
通信用変調方式
電波数安定度
±2ppm ( -10°C~+50°C ) ±3ppm ( -10°C~+40°C )
寸法
高さ: 140(幅)×50(奥)×116(奥行)mm
重量
約41.5kg
電源電圧
直流13.8V マイナス極地
消費電流
通電時 約0.1A, 静電時 約0.3A
付録: ベゼンス
50Ω

通信出力
5W
最大電流数増幅
±3.3kHz
スパイラブル発射制限
-60dB以下
全音域回数変調
13kHz以内

受信部
受信方式
デジタルスーパーハイテクロジオン方式
中間周波数
第1: 1123MHz
第2: 455kHz
20dB QS 價格
-6dB以下（音声出力50mW時）
エリアしながらエリア
60dB 以上
相互変調特性
60dB以上
音声出力
2W 以上 (50Ω負荷)

特長
符号形式
NRZB標準符号
変調方式
M8K変調
倍音数比: 1:1変調
1:3.3kHzから3.3kHz
マーク周波数比: 1:3.3kHz
120kHzから3.3kHz
スペーサ周波数比: 1:3.3kHz
180kHzから3.3kHz

- 60 -
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>YHA−932</th>
<th>YHA−933</th>
<th>YHA−937</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>(屋外用)</td>
<td>(屋外用)</td>
<td>(屋外用)</td>
</tr>
<tr>
<td>アンテナ形状</td>
<td>32W帯天</td>
<td>32W帯天</td>
<td>72W帯天</td>
</tr>
<tr>
<td>駆動周波数</td>
<td>990〜995kHz</td>
<td>990〜995kHz</td>
<td>990〜995kHz</td>
</tr>
<tr>
<td>インピーダンス</td>
<td>50Ω</td>
<td>50Ω</td>
<td>50Ω</td>
</tr>
<tr>
<td>設定周波数</td>
<td>1:1以下</td>
<td>1:1:以下</td>
<td>1:1:以下</td>
</tr>
<tr>
<td>驅動方法</td>
<td>7W(絶対値)</td>
<td>7W(絶対値)</td>
<td>7W(絶対値)</td>
</tr>
<tr>
<td>電流</td>
<td>約4.2A</td>
<td>約4.2A</td>
<td>約4.2A</td>
</tr>
<tr>
<td>パッケージ寸法</td>
<td>570×104</td>
<td>570×104</td>
<td>110×30</td>
</tr>
</tbody>
</table>

**純正アンテナ基盤**

YHB−2 NR ルーフサイド式(適合アンテナ YHA−931, YHA−932)
YHB−1 NT ロングリード式(適合アンテナ YHA−931, YHA−932)
RSM−100 N ベランダ用アンテナ基盤

**変圧用電源**

FYP−80 安定100V用電源装置

<table>
<thead>
<tr>
<th>特 長</th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>入 力</td>
<td>約700V</td>
<td>50〜60Hz</td>
</tr>
<tr>
<td>出 力</td>
<td>最小1.5W</td>
<td>8W</td>
</tr>
<tr>
<td>出力電流</td>
<td>最大1.5A</td>
<td>1.5A</td>
</tr>
<tr>
<td>ケース寸法</td>
<td>116mm(幅)×67mm(高)×257mm(奥)</td>
<td>116mm(幅)×67mm(高)×257mm(奥)</td>
</tr>
<tr>
<td>重 量</td>
<td>約2.2kg</td>
<td>約2.2kg</td>
</tr>
</tbody>
</table>

**外部スピーカー**

SP−S5

<table>
<thead>
<tr>
<th>特 長</th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>スピーカー口径</td>
<td>50×90mm</td>
<td>50×90mm</td>
</tr>
<tr>
<td>力</td>
<td>5W</td>
<td>5W</td>
</tr>
<tr>
<td>インピーダンス</td>
<td>4Ω</td>
<td>4Ω</td>
</tr>
<tr>
<td>ケース寸法</td>
<td>65×113×55.5mm</td>
<td>65×113×55.5mm</td>
</tr>
</tbody>
</table>
* ワンタッチ型モービルブロック
* モービルマイクロホン
* ヘッドセット
* スイッチボックス
* スピーカーマイクロホン
* DC-DCコンバータ
* キャリングセット

(MH-3型、SB-1型、FDC-2型、CSC-1型)

（キャリングケース、シェルダーベルト、アンテナ基台、アンテナYHA-R04付）


| FYA-925 | FYA-925Aなどの旧システム
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>パーソナル無線機</td>
<td>パーソナル無線機</td>
</tr>
<tr>
<td>80/256CH 呼び出し</td>
<td>80CH</td>
</tr>
<tr>
<td>80/156CH 待ち受け</td>
<td>80/256CH</td>
</tr>
<tr>
<td>緊急連絡用（EcordE）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>交通通信用（PcodE）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>高速送受信中（HcordE）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>近接車通信用（LcodE）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Aコード（AcodE）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Bコード（bcodE）</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 注意事項
- 新システムでは、緊急の連絡用以外の待受受けはマルチモードにして個別に監視マーク "○" を消すと待受受けできなくなり、呼び出しからの通信専用になります。（シールド参照）
- 小ゾーンモード（２＋）は、一部通信モード（２＋）が旧システムのパーソナル無線機との間ではできません。
パーソナル無線に使用する電波の性質

パーソナル無線は、900MHz帯という、極めて高い周波数の電波を使用する無線通信です。

この900MHz帯という電波は、AMのラジオ放送に使用する中波(MW)帯、海外放送、国際通信、などが近傍に使用する電波(SW)帯などとは異なり、波長約30cmのUHFの電波です。

UHF帯の電波は、UHF-TVでご覧のように、光の性質に近い電波で、山岳地などからのにおける見通しが良い場所からは比較的遠方まで電波が届きますが、市街地などではビルの陰などで電波が遮断されたりすると電波の伝播がはげしい環境帯であります。

下の図に示したように、様々な障害物や反射による電波の伝わり方の状況を示しておりますので参考にして下さい。なお、短絡ネットワーク移動するだけで信号が弱くなったり、伝わらなくなることがあります。
八重洲無線株式会社

営業部  ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2


東京営業所/リテラル ☎03-3612-3353 関東支社/センター ☎03-3712-3000

技術部  ☎03-3717-3000 東京営業部/センター ☎03-3712-3000

名古屋営業所/リテラル ☎052-555-2000 名古屋支社/センター ☎052-555-2000


沖縄営業所/センター ☎0992-251-2000 沖縄支社/センター ☎0992-251-2000

サービスセンター ☎03-3712-3000 東京営業部/センター ☎03-3712-3000

E2200000D8705-8T